

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く (62) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(62)—

1. 始めに

前報(61)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もヴァイオリン協奏曲です。

ドイツグラモフォン 419-185-1~419-187-2

モーツアルト ヴァイオリン協奏曲 1 番

ヴァイオリン協奏曲 2 番

ヴァイオリン協奏曲 3 番

ヴァイオリン協奏曲 4 番

ヴァイオリン協奏曲 5 番

ヴァイオリンとオーケストラのためのアダージオ KV261

ヴァイオリンとオーケストラのためのロンド KV375

ヴァイオリンとオーケストラのためのロンド KV261a

イザーク・パールマン (ヴァイオリン)

ジェームス・レヴァイン指揮ウイーンフィル

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォンのデジタル録音盤ということで、TELDEC、正相、第4時定数 Mid で聴いていきます。

パールマンとレヴァイン指揮ウイーンフィルによるヴァイオリン協奏曲 1 番から 5

番とヴァイオリンとオーケストラのためのアダージオおよびロンド 2 曲のデジタル録音による全集で、ヴァイオリン協奏曲はいずれも定番のもので、アダージオおよびロンドも小粋な小品です。

パールマンのヴァイオリンは、強めのヴィブラートを効かせながらの切れ味良くすっきりとした演奏です。

レヴァイン指揮ウイーンフィルもデジタル録音ということで、端正ですっきりとしています。ウイーンフィルのアナログ録音のような艶やかさは後退しています。

全般的にデジタル録音ながら、それほどデジタル臭いところはなくアナログの音になっていますが、これまでアナログ録音に比べて、さっぱりとしていて若干深みが後退しています。

4、まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、パールマンのヴァイオリン演奏とレヴァイン指揮ウイーンフィルのデジタル録音の特徴がよく捉えられていました。

以上